

第2回例会 一般質問から



会派清新
東 元 勝 己

コロナ時代の移住定住政策について

質問 コロナ禍後の移住定住政策について市の考えを伺う。

答弁 これまで移住希望者が移住を検討するうえで「収入の減少」や「移住先での就職先確保」が移住を妨げる要因にもなっていました。が、地方にしながら仕事ができる、続けられるテレワークの普及は、コロナ収束後の移住定住施策のスタンダードとして定着するのではないかと考えています。

本市においては、今年3月に策定した「第2期滝川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、休暇を兼ねてリモートワーク（※1）を行う「ワーケーション」による都市部住民などとの関わりを創出し、将来的な移住に向けた取り組みの可能性を模索しているところであ

り、滝川市が従来から持っている強みと複合的に移住定住施策を検討していきたいと考えています。

質問 コワーキングスペース（※2）として、たきかわ観光国際スクエアなどを活用してはどうか。

答弁 たきかわ観光国際スクエアは、政府観光局から外国人観光案内所の認定を受け、Free Wi-Fiも整備しましたが、観光案内施設という目的と、さまざまな方が自由に出入りできる環境から、コワーキングスペースなどのビジネス利用にはそぐわないと考えています。今後、移住定住施策を進める一つの方向性としてテレワークに必要な環境やニーズの把握に努め、可能性を見極めていきたいと考えています。



（※1）所属している会社のオフィスではなく、自宅などで働くこと。

（※2）事務所スペース、会議室、打ち合わせスペースなどを共有しながら独立した仕事を行う共働きのワークスタイル。



会派清新
荒 木 文 一

避難所の運用見直しについて

質問 新型コロナウイルス感染防止対策としての密への対応、備蓄品など災害時避難所の運用見直し方針について伺う。

答弁 国や北海道からの通知、民間事業者などからの情報を参考に対策を講じていきます。熱咳等症状者と分ける、マスク・消毒剤の持参や備蓄としてパーティションなどの資材追加を考えていますが、公式ホームページや広報紙などを通じて周知していきます。

発熱外来の開設検討について

質問 現状、市内民間医療機関の多くが、新規外来患者を抑制している状況下で、市立病院の発熱外来が「最後のとりで」の役割を果たされている。院内感染リスクを低減するためには、別棟で確保される方が良いのではないかと検討を進める必要性について伺う。

答弁 総合案内でのトリアージ後

に疑いのある患者には、1度院外に出て陰圧室のある救急処置室で診察をするなど、感染予防対策を可能な限り実施しています。別棟

設置は、心理的安心感につながると思われませんが、設置コスト、マンパワーの面からも現状としては簡単ではないと考えています。

質問 別棟設置による感染防止は万全とは思わないが、一般外来患者の受診抑制には効果があるのではないかと考える。契約している医療コンサルタントの見解を伺う。

答弁 トーマツ社としては、設置の是非は市の判断によるものとして、一般論としては、需要、マンパワー、経営面で判断されるべきとの見解が示されています。

国の財政支援について

質問 災害時の病院機能の維持に向けた国の支援メニューはないのか伺う。

答弁 国において、医療機関の減収分を補てんする支援制度を検討しているとの情報はありますが、公立病院も対応いただけるよう情報収集に努め、適切に対応していきます。